

平和を

平和への想いを はせる場所を巡る

戦後79年。芦屋市もかつて戦争の惨禍に見舞われ、甚大な被害を受けました。人々の命が奪われ、建物が破壊され、心に深い傷を残しました。一人でも多くの方に、戦争の悲惨さ・平和の尊さ・命の大切さを改めて考えていただけるように、平和への想いをはせることのできる場所を紹介します。

公光町(阪神芦屋駅から徒歩約6分)

② 市制施行記念 国旗掲揚台

芦屋市公光分庁舎付近には、昭和15年(1940年)に建てられた市制施行記念国旗掲揚台が移設されています。

この石柱にある「紀元二千六百年」は、西暦ではなく、初代天皇である神武(じんむ)天皇が即位したとされる年(紀元前660年)を紀元とする、当時多用されていた「皇紀」という紀年法によるものです。①の石柱にも同じ年を指して「皇紀二千六百年」と刻まれています。戦後はほとんど使用されなくなりました。

市制施行の翌年、第2次世界大戦が始まり、芦屋市も戦時体制下におかれ、生活物資の統制や防空演習・学童疎開・学徒動員など戦時色が濃厚となっていきました。さらに昭和20年(1945年)5月から8月の4度の空襲により甚大な被害を受けました。

市制施行から間もなく大きな困難に見舞われた芦屋市も今年で市制施行84年を迎えます。戦争を知らない世代や若者に、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、命の大切さを今後も語り継いでいきましょう。



精道町(阪神芦屋駅より徒歩3分)

③ 被爆アオギリ二世

昭和20年(1945年)8月6日、爆心地から北東へ約1.3kmにあった旧広島通信局の中庭で被爆したアオギリは、爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、広島市民に生きる勇気と希望を与えました。

「平和を愛する心」を後世に継承するため、この被爆アオギリが実らせた種を発芽させて育て、成長した苗木を「被爆アオギリ二世」と名付け、広島市から世界中に配布され、育てられています。芦屋市では平成29年(2017年)5月2日に、市役所東館入口にて植樹を行いました。植樹から7年を経過した今も、平和の尊さを伝えるシンボルとして成長し続けています。



今回は、市内に残る平和への想いをはせることのできる場所を巡りました。二度と戦争の過ちを犯さぬよう、これからも平和を願い続けましょう。
わたしたち一人ひとりが戦争と平和について考え、後世に伝えていくことが、未来の平和への第一歩となります。

三条町(阪急芦屋川駅より徒歩約8分)

① 三条八幡神社

三条町の阪急神戸線沿いにある三条八幡神社には、「道路舗装寄附者有志」「皇紀二千六百年記念」の文字が彫られた国旗掲揚台の石柱一対と、「我等の魂」「皇紀二千六百年(昭和17年<1942年>)天長節建之」「日の丸の旗」「西山手第六町内會」の文字が彫られた国旗掲揚台の石柱一対が移設されています。

この国旗掲揚台が建てられた昭和17年の6月には、ミッドウェイ海戦で日本海軍が大敗しました。



宮川町(阪神芦屋駅より徒歩約15分)

④ 富田碎花旧居

富田碎花旧居は、富田碎花が昭和14年(1939年)5月から、昭和59年(1984年)10月17日に93歳で亡くなるまで暮らした場所です。当初は10部屋もある大きな屋敷でしたが、昭和20年(1945年)8月6日の阪神大空襲で焼失してしまい、現在の母屋は昭和29年(1954年)に再建されたものです。そして、戦前の建物は門屋しか残っていません。富田碎花旧居の庭を注意深く観察すると、焼けた瓦・赤茶色の土・溶けたガラスの破片など、空襲の爪痕が深く残っています。



【開館日】水曜日および日曜日(ただし8月13日～19日、12月29日～1月3日を除く)【開館時間】午前10時～午後4時(入館は午後3時まで)【入館料】無料